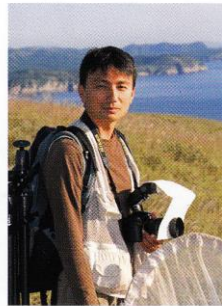


原発事故で、

生きもの達に何がおこったか。

2011年の大地震と大津波に連動した原発事故は私たちに人間の小ささと愚かさを気づかせてくれました。しかしそれから6年を経た今、あの時の気持ちは徐々に忘れられようとしています。でも、原発の事故処理は全く終わっておらず、放射線の影響がどのようなものかも、いまだに実態が見えません。今回、第1部では生態系がどのようなようになってきているのかを中心に『原発事故で、生きものたちに何がおこったか。』の著者にお話していただきます。また、第2部で福島の子どもたちの様子も報告していただき、事故の影響がどのようにあらわれているのか、考えてみたいと思います。



永幡嘉之 (ながはた・よしゆき)

1973年、兵庫県生まれ。山形県山形市在住。自然写真家。信州大学大学院農学研究科修士課程修了。専門は保全生物学。日本チョウ類保全協会事務局員。東北地方と極東ロシアを舞台に、里山の歴史を撮りつづける。2011年の東日本大震災以降は、津波跡地での動植物の調査・保全にあたる。著書に『巨大津波は生態系をどう変えたか』（講談社）、『白畑孝太郎—ある野の昆虫学者の生涯』（無明舎出版）などがある。

日時: 2017年6月3日(土) 13:30~16:30

場所: 日比谷図書文化館 地下大ホール (日比谷公園内)

内容: 第1部 講演 『原発事故で、生きもの達に何がおこったか。』

講師 永幡嘉之氏 (自然写真家)

第2部 報告 『福島の子どもたちとともに』

大石恵子氏 (ふくしまっ子リフレッシュ in 大磯 代表)

まとめ 上遠恵子 (レイチェル・カーソン日本協会 会長)

参加費

A. 1000円 B. 2500円(サイン入りの著書付)

(申し込み時に A・Bどちらかお選びください。)

当日受付の場合はAのみです)

申し込み先 TEL & FAX 04-7184-5795 島藤
Eメール 5995xj@bma.biglobe.ne.jp



主催: レイチェル・カーソン日本協会関東フォーラム